



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2021年2月12日 No.282

「東京駅新幹線ホーム下乗務員乗継詰所」の取り扱いに関する申し入れ 新幹線統括本部と団体交渉を行う！

東日本ユニオンは2月9日、幹申第1号『東京駅ホーム下乗務員乗継詰所』の取り扱いについて」の団体交渉を開催しました。現在使用している東京駅ホーム下乗継詰所の継続使用については、新幹線統括本部と認識の一致をはかることができなかったものの、異常時における情報収集の問題意識と東京新幹線運輸区にすべての乗務員が集うことから、新型コロナウイルス感染症対策の重要性について確認しました。



団体交渉 確認事項

<東京駅から東京新幹線運輸区までの指定通路を明らかにすること>

- ・「新幹線ホーム」→「神田方階段」→「日本橋口 社員通路」→「コンコース」→「N-CTCビル」→「エレベーター」→「東京新幹線運輸区」である。
- ・資料が準備でき次第、社員周知を行う。

<東京駅から東京新幹線運輸区までの徒歩時分を明らかにすること>

- ・折り返し時間として総体を示しているの、内訳として徒歩時間を示す必要はないと考えている。

<折り返し時間算出の方法を明らかにすること>

- ・乗継箇所等から東京新幹線運輸区までを実測した上、余裕をもたせてある。例えば、運転士であれば11分前に東京新幹線運輸区を出発することで、新幹線の「どの編成」であっても下り方乗継場所への3分前出場が可能である。

<乗継詰所については、継続して使用できるようにすること>

- ・現行の詰所については、安全衛生上好ましくないため使用停止とする。きれいな東京新幹線運輸区を使用してほしい。なお、異常時の情報収集には会社としても問題意識を持っており、東京新幹線運輸区以外の場所を設けることを検討している。

<新型コロナウイルスが蔓延している中で、多くの社員が集まることに不安の声がある>

- ・休憩スペースについては、最繁忙期の待機人数を算定した上でレイアウトしているの十分なスペースがある。必要な感染症対策については行っていく考えである。

東日本ユニオンは現場組合員からの声をもとに、2月12日、幹申第2号『2021年3月ダイヤ改正等について』に関する申し入れ」を新幹線統括本部に提出しました。

東京駅の折り返し間合いにおける食事時間や生理現象などに対応するための時間の確保を求めていきます！